

Annual Report

2024

北上信用金庫

まるみえ

北上信用金庫のミニディスクロージャー

見えしんきん



この街と生きていく。

北上信用金庫



信用金庫イメージキャラクター
信ちゃん鬼剣舞 Ver

業績のご案内

◆ 預金積金及び貸出金の状況

■ 預金の状況

2024年3月期の預金積金残高は、前期比360百万円減少の102,146百万円となりました。

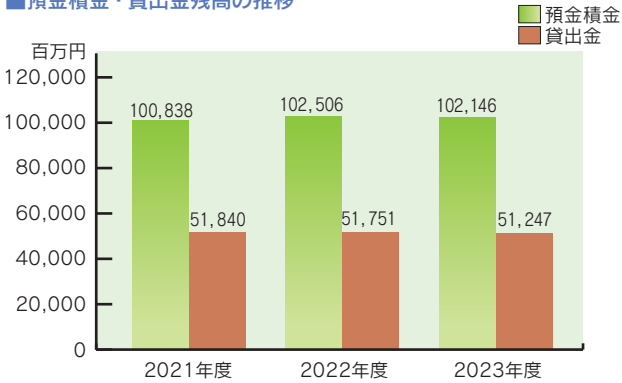
預金積金残高のうち個人預金が70.8%を占めております。

■ 貸出金の状況

2024年3月期の貸出金残高は、前期比504百万円減少の51,247百万円となりました。

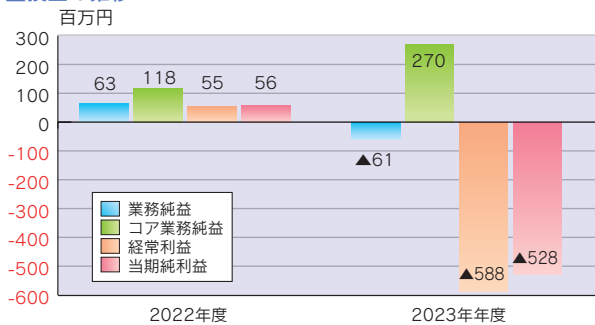
また、特定の取引先や業種に集中することなく貸出を行うことで、地域の発展や活性化に活かされるよう努めております。

■ 預金積金・貸出金残高の推移



◆ 損益の状況

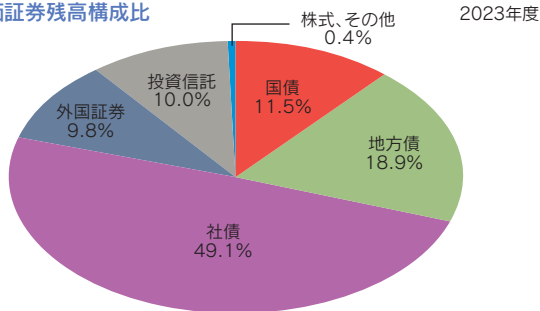
■ 損益の推移



◆ 有価証券の時価情報

お客様からお預かりしております預金積金は貸出金のほか、有価証券等で運用しております。資金の公共性に鑑み、安全性や収益性に留意し、国債をはじめ、公社債等で運用しております。

■ 有価証券残高構成比



■ 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式

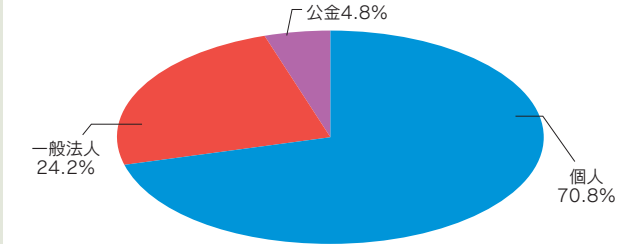
該当ございません。

■ 売買目的有価証券

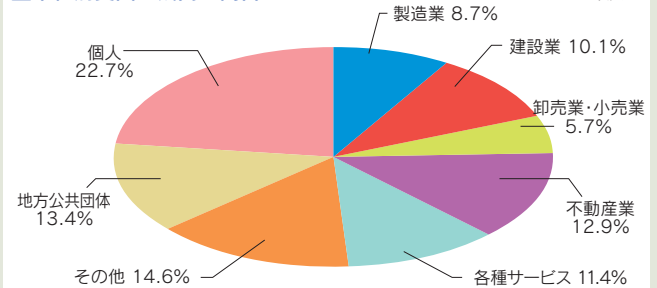
該当ございません。

地元のお客様よりお預入れいただいた大切な預金は地元で事業を営む事業者や個人のお客様にご融資することで、地域社会に還元しております。

■ 預金者別預金残高の割合



■ 業種別貸出金残高の割合



安定した収益の確保に努めております。

将来、業況が悪化する見込みのある先へ対応するために貸倒引当金を積み増したことで評価損を抱える有価証券を処分したことにより業務純益▲61百万円、経常利益は▲588百万円、当期純利益は▲528百万円を計上しました。

地域の事業者や個人のお客様の資金需要にお応えするとともに、各種リスク管理を徹底し、今後も安定的な収益確保に取り組んでまいります。

※「業務純益」とは、金融機関の利益を見るうえでの重要な指標で、預金・貸出金や為替業務等金融機関本来の業務から生まれた利益です。

※「コア業務純益」とは、業務純益から国債等債券損益と一般貸倒引当金繰入額の影響を除いたものです。

※「経常利益」とは、業務純益に貸出金償却、貸倒引当金繰入額等の臨時損益を加減したものです。

※「当期純利益」とは、経常利益に特別損益を加減し、法人税等を控除した最終利益です。

市場関連リスクを考慮し、安全な運用に心がけております。

■ 満期保有目的の債券

	2023年度 (単位:百万円)		
	貸借対照表計上額	差額	
満期保有目的の債券	1,678	11	うち益 30 / うち損 18

1) 「差額」は、貸借対照表計上額と時価との差額を計上しております。

2) 時価は、2024年3月末における市場価格等に基づいております。

■ その他有価証券

	2023年度 (単位:百万円)		
	貸借対照表計上額	評価差額	
その他有価証券	25,586	▲626	うち益 285 / うち損 912
株式	2	0	0 / -
債券	20,243	▲636	68 / 704
その他	5,341	10	217 / 207

1) 貸借対照表計上額は、2024年3月末における市場価格等に基づいております。

2) 上記の「その他」は、信金中央金庫の優先出資証券、日高見ファンド、投資信託及び外国証券です。

3) 「評価差額」は取得原価(償却原価)と貸借対照表計上額との差額を計上しております。

■ 時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券

	2023年度 (単位:百万円)	
	貸借対照表計上額	
その他有価証券 非上場株式		9

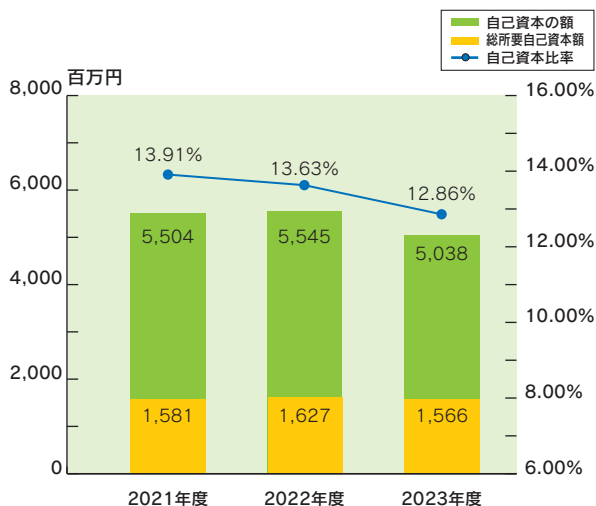
自己資本の充実の状況等について

◆自己資本の充実の状況

自己資本比率とは、信用金庫の経営状況を把握する重要な指標です。自己資本比率が高ければ高いほど、財務の安全性・健全性が高く経営基盤が安定しているといえます。

当金庫の2024年3月期の自己資本比率12.86%は、国内基準4%を超えた高い水準を維持し、十分な健全性を確保しており、皆様に安心してお取引いただける経営内容となっております。

■自己資本額・総所要自己資本額・自己資本比率の推移



■自己資本に関する事項

(単位：百万円)

項目	2022年度	2023年度
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	5,786	5,383
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	241	345
自己資本の額 ((イ)-(ロ)) (ハ)	5,545	5,038
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	40,677	39,170
自己資本比率 ((ハ)/(ニ))	13.63%	12.86%
信用リスクに対する所要自己資本の額	1,536	1,474
オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額	91	92
単体総所要自己資本の額	1,627	1,566

(注) 「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準により自己資本比率を算出しております。

※「コア資本」とは、会員の皆様からお預かりしている出資金や、一般貸倒引当金などが該当します。

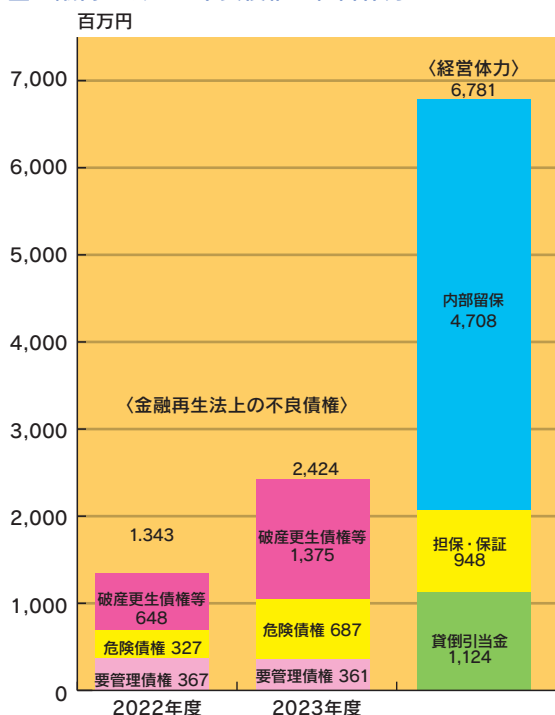
※「リスクアセット」とは、オンバランス・オフバランスの各資産項目にリスク・ウエイト(資産ごとにリスクの割合によって定められた掛目)を乗じて算出した額で、自己資本比率の分母になります。

※「オペレーショナル・リスク」とは、金融機関の業務の過程、役職員の活動、もしくはシステムが不適切である事などにより損失を被るリスクのことです。当金庫では基礎的手法を採用して算出しております。

※「総所要自己資本の額」とは、自己資本比率分母の額に4%を乗じて算出した額のことです。

◆金融再生法ベースの債務者区分による開示

■金融再生法上の不良債権と経営体力



資産の健全性向上を図っております。

金融再生法上の不良債権は、前期比1,081百万円増加の2,424百万円となりました。また、不良債権比率は2.13ポイント上昇して4.72%となりました。

これらの不良債権は、担保・保証や貸倒引当金により85.48%保全されているほか、内部留保を加えた経営体力6,781百万円によりカバーされております。

※金融再生法上の不良債権は、「貸出金」に加え、「債務保証見返」「未収利息」「仮払金」を対象債権としております。

※2024年3月末時点で実施した自己査定に基づき、金融再生法ベースで開示しております。

※「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

※「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」に該当しない債権です。

※「要管理債権」とは、信用金庫法上の「三月以上延滞債権」に該当する貸出金と「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金の合計額です。

北上信用金庫 SDGs の取組み

北上信用金庫は、国連が提唱する SDGs（持続可能な開発目標）の理念に賛同し、地域金融機関としての経営理念に基づき、「経済」「社会」「環境」各分野において、地域の特性を活かした取組みを進め、持続可能な地域社会の実現に貢献します。



SDGs 応援定期預金キャンペーン寄付金

SDGs 応援定期預金は、「すべての子どもが夢と希望をもって未来へチャレンジできるよう北上市、西和賀町が子どもの笑顔あふれる魅力ある地域となるよう想いを込め、青少年の健全育成に取り組む団体へ寄付すること」を掲げて 2ヶ月間限定で発売した定期預金です。

賛同いただいた地域の皆さまから多くの預金をお預入れいただき北上市社会福祉協議会様、西和賀町社会福祉協議会様へ寄付をさせていただきました。

さらに SDGs の取組みとして当金庫とフコクしんらい生命保険株式会社は共同寄付スキームの取扱いを開始し、保険販売を通じた共同寄付の贈呈式も行いました。この取組みは、定期保険・医療保険の販売件数につき、当金庫とフコクしんらい生命株式会社がマッチングギフト方式により寄付するものです。

令和4年度・令和5年度の取組み結果として、北上市社会福祉協議会へ寄付させていただきました。



西和賀町社会福祉協議会へ寄付金の贈呈



北上市社会福祉協議会へ寄付金の贈呈
並びに
北上信用金庫とフコクしんらい生命保険株式会社との
共同寄付スキームの取扱いによる寄付金の贈呈

北上信用金庫インスタグラム



地元とともに



〒024-0094 岩手県北上市本通り一丁目5番30号
TEL 0197-63-2307(代) <https://e-shinkin.net/>